

第7回芸備線再構築協議会の開催結果について

1 概 要

芸備線 備後庄原駅～備中神代駅間の交通手段再構築を議論する「芸備線再構築協議会」について、令和8年7月16日に第7回協議会が開催されたため、その結果を報告する。

〔芸備線再構築協議会の概要〕

- 特定区間：備後庄原駅（庄原市）～備中神代駅（岡山県新見市）
- 構 成 員：中国運輸局（事務局）、岡山県、広島県、新見市、庄原市、
広島市、安芸高田市、三次市、J R 西日本、学識経験者 ほか
- 位置づけ：特定区間の交通手段再構築を協議する場

2 現状・背景（経緯）

令和5年10月3日 J R 西日本が、地域交通法に基づき、備後庄原駅～備中神代駅間における再構築協議会の設置を要請

令和6年1月12日 中国運輸局が、要請区間を特定区間とする芸備線再構築協議会の設置を決定（全国初）

- 3月26日 第1回芸備線再構築協議会 開催
- 10月16日 第2回芸備線再構築協議会 開催
- 令和7年3月26日 第3回芸備線再構築協議会 開催
- 7月9日 第4回芸備線再構築協議会 開催
- 7月19日 実証事業Aの開始（令和8年6月までの1年間実施）
- 11月6日 第5回芸備線再構築協議会 開催
- 令和8年3月25日 第6回芸備線再構築協議会 開催
- 6月1日 実証事業Bの開始（令和8年9月まで実施予定）
- 7月16日 第7回芸備線再構築協議会 開催

3 主な議事

- （1）幹事会実施報告
- （2）令和8年度実証事業（鉄道を活用した実証事業A、バスを活用した実証事業B）実施状況
- （3）令和8年度再構築方針作成等に関する調査事業の実施状況
- （4）その他

4 議事の内容

（1）幹事会実施報告

事務局から、令和8年5月14日に開催された第9回幹事会の概要を報告

- 実証事業A・Bの進捗報告
- 再構築方針の記載事項イメージと今後の協議会における議論の流れ（11月協議会で事務局骨子案を提示）を説明

（2）令和8年度実証事業A・Bの実施状況

事務局から、実証事業A・Bの具体的な取組内容が説明された。

- 実証事業Aの継続実施（令和8年4月～6月）
 - ・ 芸備線の増便による鉄道サービスの拡充、二次交通の設定、観光ツアー など
- 実証事業Bの実施（令和8年6月～9月）
 - ・ 平日バス実証：令和8年6月1日～9月30日
 - ・ 休日バス実証：令和8年7月4日～9月27日
 - ・ 定期券を持つ芸備線利用者などを対象とした乗車モニター調査 など

【構成員の主な意見】

構成員	主な意見
新見市	○ 平日バス実証について、朝夕便には高校生 20 名程度が乗車し、新見駅での乗り換えがなく、直接学校に行けるため便利という意見や、哲西地区の住民からは、自宅近くのバス停から東城のスーパーや病院に行けるため良いとの声を聞いている。 ○ 一方、鉄道に比べてバスは座席が狭い、あるいは車酔いしやすいとの理由で、鉄道での通学を続けている高校生もいる。 ○ 事務局においては、利用状況や利用者の声を収集し、鉄道とバスの比較検証などを丁寧に行ってほしい。
庄原市	○ 庄原市域において、平日バス実証の利用者数は伸び悩んでいる状況にあるが、より多くの利用者の意見が把握できるよう、利用促進に取り組んでいきたい。
J R 西日本	○ 休日バス実証について、広島駅～備後庄原駅を結ぶ「庄原ライナー」を同期間運行するほか、チラシを広島駅や岡山駅などの主要な駅に配架するなどしており、少しでも有意義な実証となるよう、取り組んでいく。

（３）令和８年度再構築方針作成等に関する調査事業の実施状況

事務局から、調査事業の実施内容が報告された。

- 実証事業Ａを今後も継続的に実施していく場合の費用と効果
 - ・ 通年換算で、約 8.3 億円/年の費用に対し、約 4.1 億円/年の経済波及効果
- 実証事業Ａ・Ｂの比較検討項目や進め方を説明
 - ・ 住民の移動における価値・沿線地域に対する価値（経済波及効果やまちづくり方針との整合性など）・実現可能性/持続可能性（費用負担など）の観点から比較検討を実施
 - ・ その後、11 月協議会で事務局骨子案の提示を受け、構成員間で詳細な議論を実施

【構成員の主な意見】

構成員	主な意見
岡山県	○ 再構築方針の作成に当たっては、過去他モードへの転換事例や、鉄道・他モードの再構築に係る費用負担なども含めて議論していく必要があり、事務局においては、各種データのとりまとめや構成員間の意見調整をお願いしたい。
広島県	○ 11 月協議会で事務局が提示される予定の再構築方針の骨子案では、具体的にどのような内容を記載しようとしているのか、事務局の考えを説明してほしい。 （⇒中国運輸局回答：骨子案では、法定記載事項を中心に概括的に記載することを想定しているが、具体的にどの項目を記載するかなど、構成員間で議論していきたい。） ○ 再構築方針案の検討に向けては、特に、地域のまちづくり方針との整合性の議論が重要と考えている。 ○ その整理に当たっては、地域住民をはじめとした、様々な関係者の意見も聞きながら検討を進めていくことが不可欠であり、来年 3 月に再構築方針を策定するにはタイトなスケジュールになると考えるが、スケジュールありきではなく、住民の納得が得られるよう丁寧に議論を進めてほしい。
新見市	○ 住民から理解と納得を得るためには、鉄道維持とバス等への転換、それぞれの運行経費、地元自治体、利用者の負担を明示することが重要である。 ○ 交通体系の再構築に当たっては、将来にわたり持続可能な交通体系であることが大前提であり、自治体ごとの費用負担や人員確保の将来的な見込みについては、データなどが揃い次第、構成員に示してほしい。
庄原市	○ 比較検討項目のどの項目を重視するかについて、構成員間で十分な協議が必要である。また、芸備線の持つ定性的な価値を含め、議論をお願いしたい。 ○ 本市としては、観光・交流の促進の観点で芸備線は多くの可能性を秘めていると考えており、市独自で、観光関連事業者などにヒアリングを行った上で、芸備線の持つ将来的な可能性等について多面的にシミュレーションを実施したいと考えており、その調査結果については、協議会に報告していきたい。
J R 西日本	○ 平日バス実証について、庄原市内での利用は数名にとどまっており、沿線高校へのバスの直接乗り入れや、備後庄原駅で乗り換えすることなく三次方面に直通できるバスの設定など、効果的な実証につなげるためにも、事務局において、高校やバス会社との調整をお願いしたい。

⇒ 構成員の意見も踏まえ、幹事会において、具体的な検討を行っていくこととされた。

(4) その他

【構成員の主な意見】

構成員	主な意見
岡山県	○ 再構築方針の策定に当たっては、データの収集・分析はもとより、理由や考え方について、地域住民にとって分かりやすく、理解いただけるものとなるよう留意して議論を進める必要があると考えている。
新見市	○ 今後、新見駅周辺への都市機能の集約、駅での乗り継ぎの改善など交通モード間の補完・連携が必要となるため、国や鉄道事業者の皆様の支援をお願いするとともに、こうした内容も再構築方針に盛り込んでほしい。 ○ 哲西地区から東城地区への県境を越える交通ネットワークの維持について、その責任主体や負担の在り方についても再構築方針に明記してほしい。
J R 西日本	○ J Rとしては、交通だけでなく、生活、地域ビジネス、観光振興など、様々な観点から、庄原や新見の地域活性化に参画し、貢献していきたい。 ○ 再構築後の交通への関わり方については、鉄道による再構築の場合は、上下分離方式を採用した上で、J Rが運行主体となることを想定している。その際、初期費用は、国の補助制度を活用し、J Rは3分の1を負担する。運行費用は、列車運行に必要な人件費や動力費をJ Rで負担していく。 ○ 一方で、バスを中心とした運行体系を構築する場合、初期費用は、国の補助制度を活用し、運行に必要となる車両の購入費やバス停設置費用などをJ Rが負担する。運行費用については、補助制度を活用してもなお不足すると見込まれる欠損額の一定期間分をJ Rが拠出していく。
神田 教授	○ 再構築協議会の議論が3年目に入り、今後議論が本格化していく中、最後は納得感がキーワードになる。 ○ 鉄道・バスいずれの交通モードを選択するにしても、今後、地域の目指すべきまちづくりの中で、公共交通をどう位置付けるかが重要である。

5 今後の対応

- 庄原市をはじめとした他の構成員とともに、引き続き実証事業に取り組んでいく。
- 今回の協議会において、事務局から、鉄道と他の交通モードの比較検討項目が示されたところであり、事務局（中国運輸局）が示した項目の記載内容などについて、構成員間で議論を進めていく。
- J R西日本から、再構築後の関与や支援の考えについて説明があったことから、今後J Rと意見交換を行い、その内容を確認していく。
- 協議会の検討や議論について、引き続き丁寧に行っていただくよう、事務局に求めていく。

6 その他

(1) 今後のスケジュール（予定）

令和8年10月 芸備線再構築協議会第10回幹事会

11月 第8回芸備線再構築協議会 ※ 以降も協議会・幹事会を開催予定

(2) 予算（単県）

11,248千円